

平成 27 年度第 1 回
横浜市公共事業評価委員会
平成 27 年 11 月 10 日(火)
横 浜 市

【都整－1】再評価

東横線跡地整備事業（廃線区間）

（都市整備局）

(様式3)

公共事業再評価調書(案)

番号	都整-1		事業担当局課	都市整備局 都市交通課			
事業名	東横線跡地整備事業(廃線区間)			採択年度	H16		
施工場所	西区高島二丁目から中区桜木町一丁目			経過年数	11年		
目的及び 事業概要	平成16年2月に、みなとみらい線と東急東横線との相互直通運転により、東横線の横浜～桜木町駅間は廃線となりました。廃線跡の鉄道高架構造物を利活用し、都心臨海部における回遊性の向上と地域の活性化を目的とし、廃線跡地を「緑あふれる魅力的な歩行者空間」として再生します。 (計画延長約1.8km、幅員約7～10m)						
			当初(事業採択時)	変更(平成22・26年度)			
	事業期間		平成16～23年度		平成16～28年度(H22変更) 平成16～33年度(H26変更)		
	事業費	合計		8,500百万円		8,540百万円 (H26までの実績考慮)	
			国費	4,675百万円		3,590百万円	
			市費	3,825百万円		4,950百万円	
	変更内容		「自転車も通れる遊歩道」としていましたが、「緑あふれる魅力的な歩行者空間」として整備するため、「自転車歩行者専用道路」を「歩行者専用道路」に変更する方針としました。また平成23年度までの事業期間を平成22年度及び26年度に変更し、平成33年度までとしました。				
	上位計画等		本市の「中期4か年計画2014～2017」において、「未来のまちづくり戦略3 魅力と活力あふれる都市の再生」や、「基本政策 施策25 魅力と活力あふれる都心部の機能強化」に位置付けられています。また、「横浜市都心臨海部再生マスタープラン」においても検討されています。				
関連事業		エキサイトよこはま22 横浜駅東口地区開発計画(ステーションオアシス計画)					
事業の 必要性	事業を巡る 社会経済情 勢等の変化		老朽化したインフラを維持管理し、国民の安全・安心を確保する社会的要請が高まっており、本事業は既存ストックの耐震補強や修繕業務を行いながら、有効に利活用し遊歩道とすることで、安全安心なまちづくりを進めることが可能です。また、高齢社会を迎える中、健康増進に対する社会の関心が高まっています。歩行量の増加による健康づくりを目指した「健康みちづくり推進事業」として位置付けられ、健康増進や外出意欲の向上につながる歩行空間の整備やネットワーク化を目的に事業を進めていきます。さらに、市域の緑の減少に歯止めをかけ、緑豊かなまち横浜を次世代に継承することが求められており、「横浜みどりアップ計画」に基づき、「都心臨海部の「緑花」による賑わいづくり」を行います。				
	事業の 投資効果		事業全体		割引率 4%(2%)		
			総便益(B)	96.13億円(143.45億円)	総費用(C)	88.68億円(90.30億円)	
			費用便益比(B/C)		1.08 (1.59)		
	事業効果等 (費用便益分析等)		〔その他特記事項〕 歩行者専用道路として整備されることによる交通便益である「移動サービス向上便益」と公園等のオープンスペースとして整備されることによるオープンスペース便益である「利用便益」と「環境便益」が期待できます。				

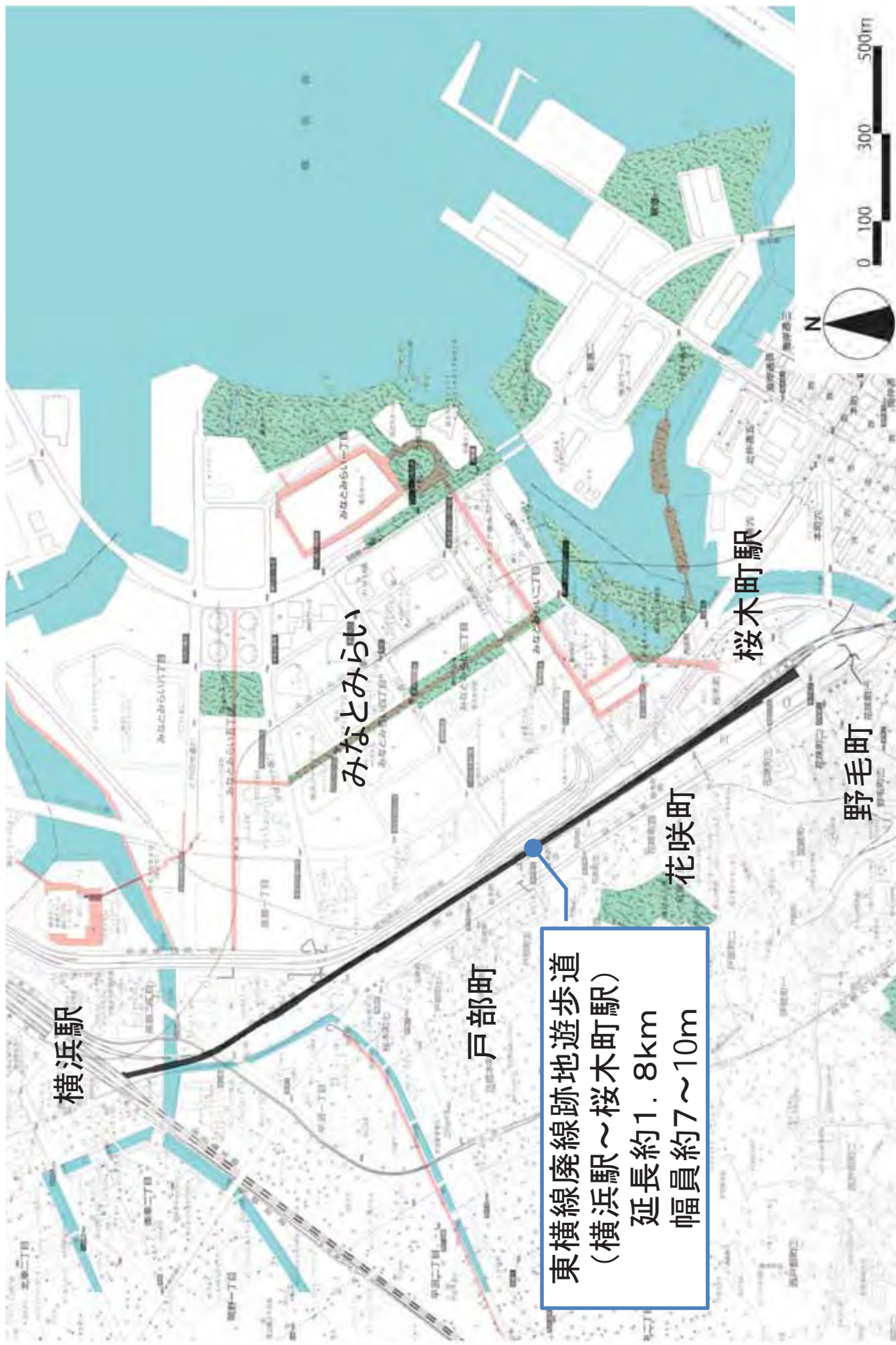
事業の進捗状況	事業進捗率%	平成 19～24 年度 用地取得 95%完了
	58 %	平成 20～21 年度 構造物補修・補強工事完了
	用地取得率%	平成 21～22 年度 みなとみらい4号線橋梁架替工事完了
	95 %	平成 25～26 年度 桜木町駅西口広場工事完了
	供用等の状況	引き続き、設計を進めるとともに、桜木町から横浜駅に向けて、既存構造物の耐震補強や補修、遊歩道整備工事を進める予定です。
事業の課題及び進捗見込み	<p>国道16号とJR根岸線の間位置し、当初検討していた自転車歩行者専用道としては十分な幅員が取れないなど物理的な制約が大きいといった課題や、横浜駅への接続においてステーションオアシス計画との整合性を図るなどの調整課題があります。</p> <p>H27.3 に方針変更を行った結果、自転車歩行者専用道から歩行者専用道に変更することで物理的な制約に対する課題を解決しました。また、ステーションオアシス計画との整合については、早期、基本計画の策定に向けて進めていきます。</p> <p>ステーションオアシス計画区域を除き、関係機関協議が概ね整い、基本設計が完了していることから、H29.3 の一部供用開始と H33 年度末までに全線の供用開始にむけ、事業を進めていきます。</p>	
その他 (コスト縮減項目等)	<p>高架下及び道路予定区域等について、まちづくりや賑わい創出等の観点から有効活用を実施する「高架下等有効活用事業」を活用し、遊歩道の維持管理費の財源を確保し充当するなど、民間のアイデアと活力を取り入れて、道路空間を有効活用する方法を検討しています。</p>	
その他	-	
添付資料	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
対応方針 (案)	継続	計画通り(上記計画を実施)※1
		一部見直し(上記計画を変更)※2
		【見直し内容】
	中止	

対応方針 (案)とした理由	<p>横浜都心臨海部の3地区(横浜駅周辺地区、みなとみらい地区、関内関外地区)の回遊性を強化するとともに、野毛、戸部、高島地区など各地域の活性化に資する重要な施設であることから、開通に向けて着実に事業を推進してまいります。</p>
------------------	---

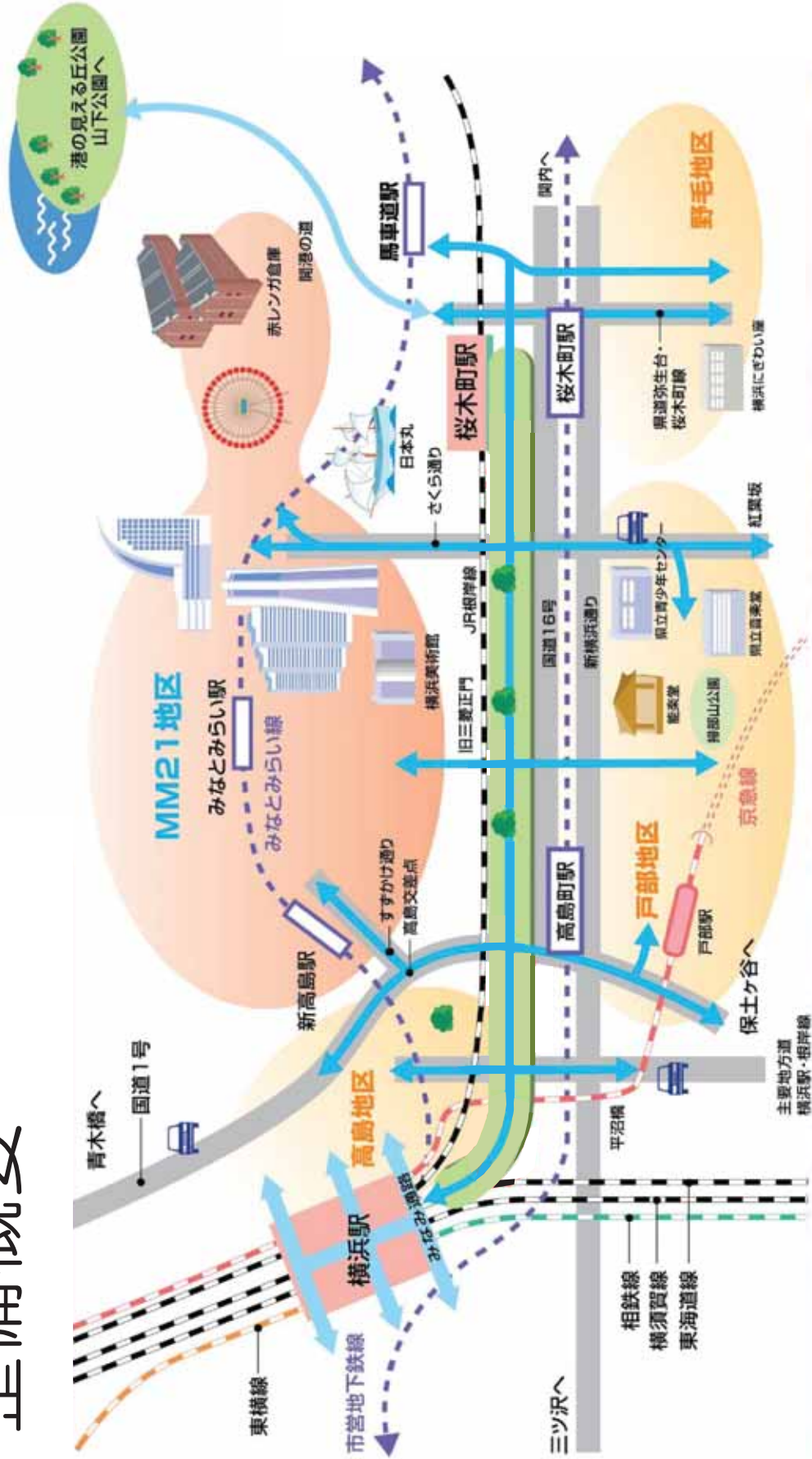
※1：既に見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。前の再評価で「継続(一部見直し)」の事業についても、その見直し内容が確定している場合は、こちらを選択してください。

※2：今後、見直しを行うことが確定している事業は、こちらを選択し、見直し内容を記載してください。

東横線跡地整備事業（廃線区間）案内図

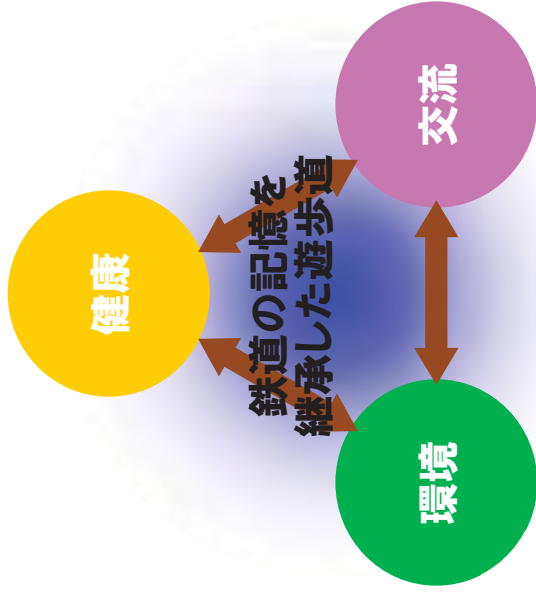


整備概要

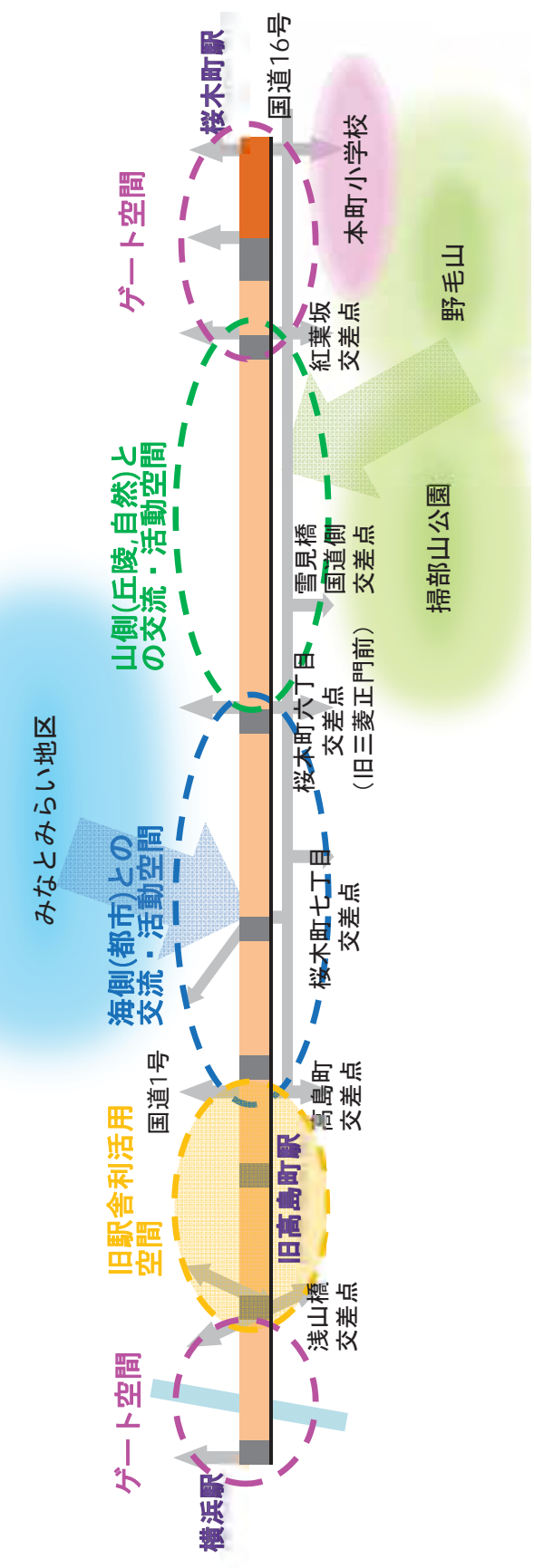


基本コンセプト

鉄道の記憶を継承した遊歩道



- 健康**
 - 生活習慣病予防に資する空間づくり(健康みちづくり)
 - 散歩、ランニング等を快適に行える環境づくり
- 環境**
 - 横浜の資産となる緑環境づくり
 - 通行、利用する人にとって楽しく快適な空間づくり
- 交流**
 - 地域をつなぐコミュニティ活動の場としての空間づくり
 - 横浜の新たな目的地的地を生み出し賑わいを創出する空間づくり
- 鉄道の記憶**
 - 初代から3代目横浜期をつなぐ位置にあることを活かすとともに、東急東横線の記憶を継承し、歴史を感じる場づくり



現況写真



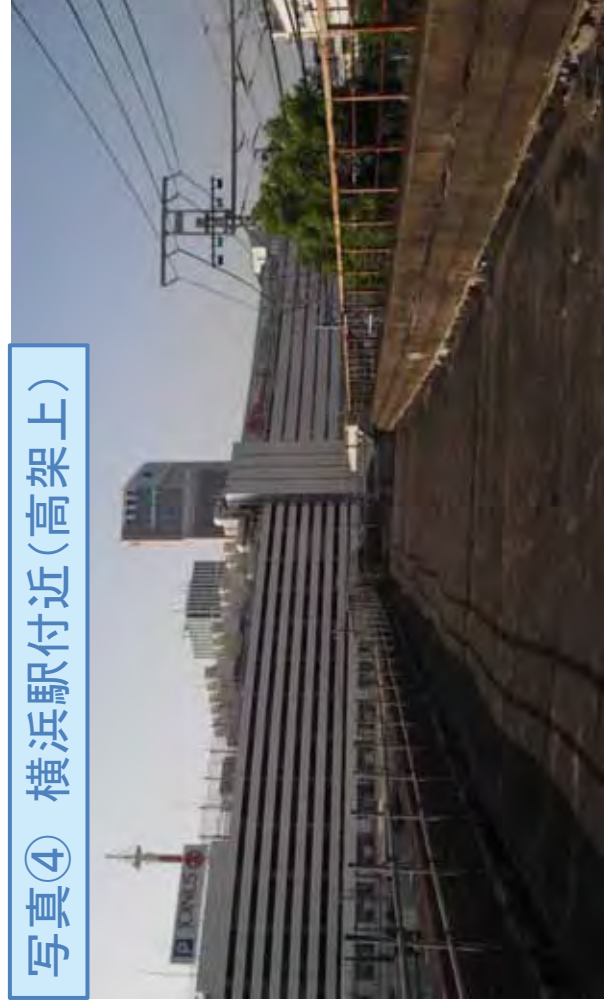
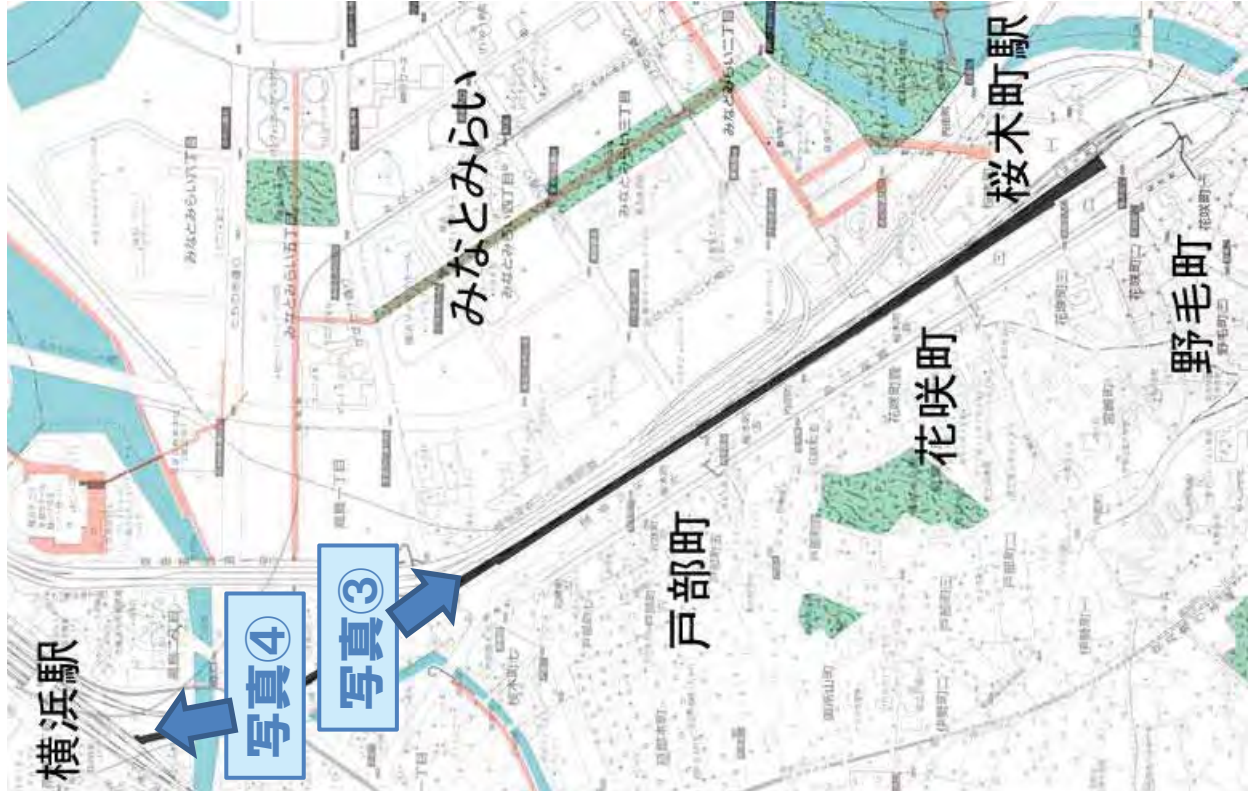
写真① 桜木町駅前広場 (平成26年7月竣工)



写真② 紅葉坂交差点 みなとみらい4号橋



現況写真



変更内容

内 容	変更前	変更後	理 由
整備方針	自転車も通れる 遊歩道	緑あふれる魅力的な 歩行者空間	健康みちづくり推進事業 横浜みどりアップ計画
通行区分	自転車歩行者専用道	歩行者専用道	自転車空間の分離の明 確化、昇降施設部の幅員 が不足
事業期間	H16～H23 (事業採択時)	H16～H28 (H22変更) H16～H33 (H26変更)	「歩行者専用の遊歩道」 への変更に関係機関協 議に時間を要したこと、 「東横フラワー緑道」を先 行整備したこと

上位計画

中期4か年計画2014～2017

戦略3 『魅力と活力あふれる都市の再生』 戦略

目指すべき姿 世界中の人々や企業を惹きつけ、誰もが住みたい、住み続けたいと思えるまち



横浜の成長エンジンとなる都心臨海部では、山下ふ頭など新たな土地利用の展開、大規模集客施設の導入等による快適で魅力的なまちづくりや観光・MICE振興、先進的な文化芸術創造都市の取組などにより、市庁・企業・行政が一体となり、世界中の人々や企業を惹きつけ、都市の活力と賑わいを創出するまちを目指します。

(1) 都心臨海部

(2) 郊外部

◆ 都心臨海部の魅力向上

グローバル企業を積極的に誘致する国際ビジネス拠点として、企業誘致に不可欠な生活環境の充実強化のため、横浜駅周辺地区では、業務・商業機能に加え、高規格住宅等の導入により大規模な都市のリノベーションを進めます。あわせて、みなとみらい21地区においては、観光MICE機能の集積をいかして、さらなるグローバル企業などの誘致を加速させます。

また、山下ふ頭周辺地区においては、大規模で魅力的な集客施設の導入などを含め、都心臨海部の新たな賑わい拠点となる再開発を推進します。区内・圏外地区では、新市庁舎整備や、横浜文化体育館（武道館機能を含む）、現市庁舎街区の再整備を含めたさらなる活性化を推進します。東神奈川臨海部周辺地区では、駅周辺の再開発と、東高島駅北地区の水辺など地域資源をいかした再整備を進めます。

東横線跡地を活用した遊歩道づくり、グランモール公園のリニューアルにあわせた緑の創出、街路樹の育成を通じた緑のネットワークを形成するとともに、公園や港湾緑地、公共施設の間を相互に連携させ、季節感のある緑花により、エリア全体の魅力を高め、

さらに、このような各エリアの都市機能の運搬性を高め、世界中の人々を惹きつける魅力を増やすため、今後の都心臨海部の開発状況や既存の交通インフラの利用状況を踏まえ、回遊性を向上させ、まちの賑わいづくりに寄与する新たな交通を導入し、都心臨海部の賑わいの軸を形成していきます。

施策25 魅力と活力あふれる都心部の機能強化

施策の目標・方向性

● オリンピック・パラリンピックを好機ととらえ、横浜におけるまちづくりの歴史をいかした先進的な取組を進め、横浜のさらなる成長をけん引します。

● 「エキサイトよこはま22」の推進、グローバル企業等の集積によるみなとみらい21地区の開発促進、新たな賑わい拠点の形成に向けた山下ふ頭の再開発、新市庁舎整備と区内・圏外地区のさらなる活性化、東神奈川臨海部周辺地区の再整備を進め、都心臨海部の機能強化を図ります。

● **東急東横線跡地の活用**、自転車や鉄道、バス、さらには新たな交通の検討など、多様な交通機能の導入により、都心臨海部における回遊性の向上を図ります。

横浜市都心臨海部再生マスタープラン

横浜市都心臨海部再生マスタープラン



歩行者ネットワークの強化・拡充

・ 人々を、横浜らしさを象徴する水際線へと呼び込むため、海へと続く歩行者軸や都心臨海部の各区の連携強化に向け、**東横線跡地を活用した遊歩道づくり**、魅力ある歩行者ネットワークの強化・拡充を進めます。

・ 歩行者ネットワークの強化・拡充と併せて、沿道の賑わいある街並みの形成や、街歩きを演出するパブリックスペースの充実（一息つけるベンチの設置など）、緑豊かな植栽等の環境整備を併せて展開し、歩いて楽しいまちを形成します。

・ 山下ふ頭周辺地区や東神奈川臨海部周辺地区については、多くの人々が地区間・地区内を円滑に移動できるよう歩行者ネットワークの強化・拡充を進めるとともに、人々を水際線に導く新たな歩行者軸の形成を進めていきます。



海沿いの開放的な歩行者空間



歩いて楽しい賑わいある街並み



横浜ならではの歩行者空間

事業効果

費用便益分析

◇算定方法の考え方

『都市再生交通拠点整備事業に関する費用便益分析マニュアル案』
『小規模公園費用対効果分析手法マニュアル』

◇便益（B）

- ・ 交通便益
 - ・ オープンスペース便益
- ① 移動サービス向上便益（B1）
 - ②-1 利用便益（B2）
 - ②-2 環境便益（B3）

◇費用（C）

- ・ 用地費・整備費と維持管理費を対象

◇費用便益分析の実施

- ・ 社会的割引率 4%（2%）
- ・ 基準年次 平成27年
- ・ 建設期間+供用後50年

事業効果

費用便益分析の結果

価格基準年	平成27年
社会的割引率	4%(2%)
[総便益]	(億円)
便益(B1)	移動サービス向上便益 3.31(4.92)
便益(B2)	利用便益 44.45(66.35)
便益(B3)	環境便益 48.37(72.18)
総便益(B)(B1+B2+B3)	96.13(143.45)
[総費用]	(億円)
用地費	35.00(35.00)
建設費	50.40(50.40)
維持管理費(橋梁+公園)	3.28(4.90)
総費用(C)	88.68(90.30)
[費用便益比]	
費用便益比(B/C)	1.08(1.59)

その他効果

その他の便益

◇効果が見込まれるが、計上していない便益

- ・ **交通便益** **移動時間短縮便益**
歩行者専用道となることで、信号のない歩行者空間となり、移動時間短縮効果が期待できる。
- ・ **オープンスペース便益** **防災便益**
東横線廃線跡地遊歩道は、地元住民の災害時における一時避難場所として、一定の効果が期待できる。
- ・ **道路事業に用いる費用便益** **交通事故減少便益**
歩行者専用道および高架上の通行となることで、歩行者と自動車の接触事故は減少することから、交通事故減少効果が期待できる。

事業進捗状況



旧MM4号線橋梁(桁下高さ3.4m)



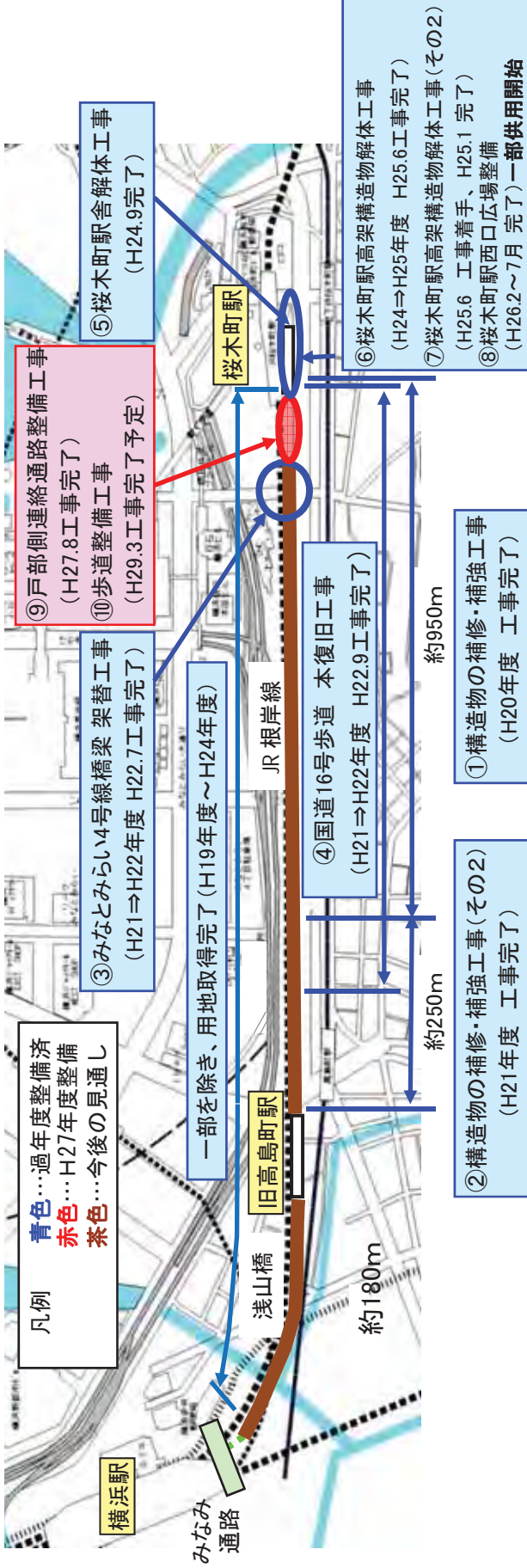
③ 現MM4号線橋梁(桁下高さ4.5m)



戸部側連絡通路工事前



⑨ 戸部側連絡通路工事了



補修・補強工事前



① 補修・補強工事了後



桜木町駅西口広場工事前
(東横線桜木町駅)



⑧ 桜木町駅西口広場整備完了